

飼料用米「ゆたかまる」で多収を得る方法

牛や鶏などの家畜のエサとなる飼料用米「ゆたかまる」を省力的に、たくさんの収量を得るための栽培方法を開発しました。この技術は、「ゆたかまる」の栽培指導で活用されており、生産者の収益向上・労働負担軽減に貢献しています。

研究成果の概要

1 背景・目的

飼料用米には、多収であるほど多くの交付金が支払われる制度があります。また、最近では生産者の労働負担を軽減できる省力的な栽培方法が求められています。

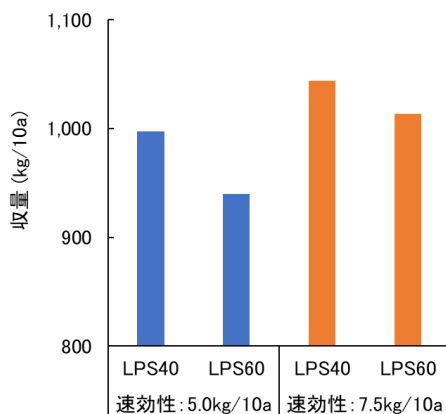
そこで、通常より株間を広くして田植えをし、使う苗を少なくする疎植栽培と、苗作りをせずに乾いた水田に種を直接播く乾田直播栽培の効率的な施肥技術の開発に取り組みました。

2 内容

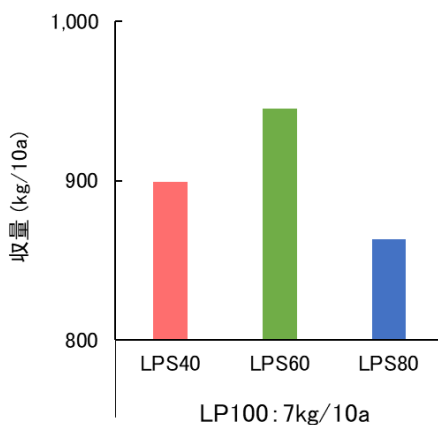
- ・疎植栽培では、肥料成分がすぐに溶け出す速効性肥料を7.5kg/10a、ゆっくりと溶け出す緩効性肥料の中でも溶出パターンがシグモイド型（下図参照）のLPS40やLPS60を5kg/10aを混ぜて施用すると、収量が増えて多収につながります。
- ・乾田直播栽培では、LPS40またはLPS60を7kg/10a、緩効性肥料の中でも溶出パターンがリニア型のLP100を7kg/10aで混ぜて施用すると収量が増えて多収につながります。
- ・LPS肥料は、溶け出しピークが幼穂形成期（追肥の適期）頃となるよう、圃場の地力や地域の気象条件に応じた溶出パターンのものを選択します。

3 活用等

- ・研究成果は飼料用米「ゆたかまる」の生産指導に活用されています。



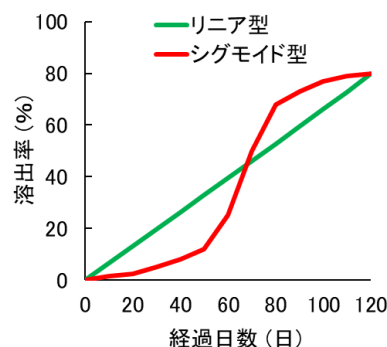
疎植栽培に適した肥料の組み合わせ



乾田直播栽培に適した肥料の組み合わせ



収穫間近の「ゆたかまる」



緩効性肥料の溶出パターン

関連情報

- ・飼料用米の移植栽培については、参考となる研究成果『飼料用米品種「ゆたかまる」における疎植栽培の収量性（令和3年度）』も参考にしてください。

